

はしがき

本報告書は平成 24 年度アジア経済研究所・研究事業「アジア長期経済成長のモデル分析 (Ⅲ)」の研究成果報告である。

アジア経済研究所では平成 21 年度に基礎理論研究会「政策評価のためのマクロ計量モデル」研究会を組織し、その研究成果を野上裕生・植村仁一編『開発途上国のマクロ計量モデル』(2010 年 3 月、日本貿易振興機構アジア経済研究所)として公刊した。また平成 22 年度、平成 23 年度には、内需を重視した長期的に持続可能なアジア経済成長への道筋を探るために、マクロ計量モデル分析への準備作業の報告を野上裕生・植村仁一編『アジア長期経済成長のモデル分析 (I)』及び同『アジア長期経済成長のモデル分析 (II)』として公刊した。本報告書では、これら成果を一部において発展させたものと、データ量・計算量の多い貿易リンク作業の効率化を目指すための方策を導いたものを掲載している。

本報告書の第 1 章(植村仁一「モデル構築の効率化プログラム」)は、前年度開発したリンクモデル開発支援プログラムを発展させたものの解説であり、旧版よりさらに効率よく輸入関数群の推定を行えるようになっている。また、複数のプログラムを連続して用いることで、同一のモデル基幹部分に対する複数の貿易ブロックのパフォーマンスを容易に比較できるようになっており、モデル開発者の労力を大幅に削減することに貢献する。第 2 章(渡辺雄一「韓国・台湾の国内需要に関するマクロ計量モデル分析—貿易リンクシステムへの接続と人口変動の影響—」)は人口構造変化のマクロ経済への影響を考慮したマクロ計量モデルを韓国と台湾に対して推定・比較し、人口変動の有効需要へのインパクトを探るものである。また同時に、リンクモデル作成に向けた改訂も行っている。第 3 章(植村仁一「簡易リンクシステムの作成—完全版リンクシステム稼働に先駆けて—」)は、構築に入り 2 年目で途上である「完全版」リンクモデルと並行・先行して作成する「簡易版」リンクモデルを解説し、その試験運用の結果を紹介したものである。第 4 章(大泉啓一郎「2000~2010 年のタイの人口動態—2010 年人口センサス速報値を用いて—」)はタイで 2010 年に行われた国勢調査結果の速報値から、タイの人口規模、出生率、人口構成、教育・労働力の変化などについて過去に行われたセンサス結果との比較を行い、その地理的特徴を把握するものである。これは同委員が前年度執筆した「国連の世界人口推計による東アジアの人口動態と特徴」を「総論」とすれば、それに続く「各論」の第一弾としてタイを取り上げたものと捉えられる。

後半部分の『データ篇』は上記諸論文で利用された統計データの値、その出所と作成方法をまとめたものであり、『資料篇』は第 1 章及び第 4 章で作成されたソフトウェアプログラムである。

本研究事業の実施に際しては様々な方々のご支援をいただいている。大泉啓一郎先生（日本総研）には外部委員として研究会に参加し、議論を深めるとともにさまざまな助言をいただいた。また、アジア経済研究所の多くの研究者からも、有形無形の助言をいただき、成果に反映させることができた。また、研究所・研究業務調整室の方々には、実務面でのご支援をいただいた。こうした様々な方のご指導・ご支援に対して、心からお礼申し上げたい。

なお、平成 24 年 5 月 21 日、当研究会の前主査・野上裕生氏が急逝された。氏のこれまでの研究会へのご尽力と我々に遺してくださった多くの情報・知識に対する深い感謝の気持ちを、東京が幻想的光景に覆われた金環日蝕の記憶とともにここに記しておきたい。

2013 年 3 月

植村仁一（開発研究センター）